

## 平成20年度 1月分NGO相談員事業従事報告書2

## ●今月の照会・相談対応全体に対する所感等(注:具体的に記載して下さい。)

テレビ局からの支援活動についての相談など、NGO以外からの相談に興味深い事例が数件合った。これまでも企業やマスコミなどNGO以外からの相談は多かったが、支援先のニーズや地域の現状を踏まえていない企画なども少なくなかった。テレビ番組企画などはその典型であったが、下記特筆事項にも記したとおり、支援内容がより現地のニーズに即したものに進化している点は興味深い。また、教育現場や企業などの地域団体が、NGO等との連携において柔軟性のある対応をみせる例も増えてきている。これは地方においても、市民の国際協力やNGO活動についての理解が徐々に深まっていることが背景にあるのではないかと。

## ●今月貴団体が対応した照会・相談のうち、特筆すべき照会・相談事項を3件記載下さい(3件以上ある場合、追加して記載下さい)。

|        |  |
|--------|--|
| 1      | 教育現場での国際理解教育について(実践を通じた国際理解教育活動の人材育成)  |
| 相談内容   | 地元の高校からの依頼。<br>国際理解のワークショップ「世界が100人の村だったら」を学生たちを対象に行ってほしい。2学年(1年生・2年生)全員が参加してのワークショップを考えている。可能だろうか。  |
| 対応内容   | 1学年240名という大人数のワークショップになるので、学校側と当団体とで事前の打合せを綿密に行い、準備を進めた。相談員だけでは対応不可能な規模であるため、大学生や若い社会人などのボランティアをスタッフとして、準備のためのワークショップ勉強会を数回実施。大人数に対応出来るように、アレンジも行った。この勉強会により、ファシリテーターを目指す若手のスタッフの育成も図ることが出来た。数回にわたるワークショップには、学生たちだけで運営した回もあった。 |
| 特筆した理由 | 教育現場の要望に応える形で、国際理解教育の人材育成も図ることが出来た事例。国際理解・開発教育のワークショップ・ファシリテーションに関心がある若者は少なくないが、講座を受けた後に実践する場が限られている。NGOが間に入ることで、大学生たちが地域の教育現場と繋がり、実践の場を得ることが出来る。このような仲介者の役割もNGOには求められてきていると考えられるため。   |

|        |  |
|--------|--|
| 2      | 国際交流協会の新規事業について  |
| 相談内容   | 国際交流協会スタッフからの相談。<br>国際交流・国際協力をテーマにした、カフェ形式の気軽なイベントの定期開催を新規に計画している。会場も芸術文化系の複合施設と連携し、気軽に立ち寄れる場所を予定している。これまで海外や国際活動に関心がなかった人たちが、若者たちをターゲットにしたい。どのようなテーマや企画がよいだろうか。   |
| 対応内容   | 世間に浸透し出したフェアトレードについてセミナーや、スタディツアーやワークキャンプ、インターンなどに参加した若者達の海外での経験談、skypeなど簡易な通信システムで海外とつなぐライブセッションなどが、参加しやすく興味を惹くテーマではないだろうか。当団体は支援国(カンボジア)に事務所があり、現地との交信も可能である。インターネットを使用したライブ交信により現地の人たちとコミュニケーションが取れる企画は、インパクトがあり集客力がある。 |
| 特筆した理由 | 地方の国際交流協会は近年、予算の削減等で活発な活動が出来ないところも出てきている。一方で、新しい切り口での事業展開を図ろうとしている協会も少なくない。NGOや関連団体、企業のCSR活動など、外部とも積極的に連携を進めている例もある。地方では関連団体・活動者は限られているため、相互にサポートし合い活動を活性化させていくことが必要となる。このような活動は、地方管轄のNGO相談員業務としては重要性が増すと考えられるため。          |

|        |  |
|--------|--|
| 3      | テレビ番組の企画による国際支援活動について  |
| 相談内容   | テレビ局の制作担当者からの相談。<br>これまで芸能人の絵をオークションで販売し、カンボジアに学校を建設する事業を行ってきた。第2段として、農業支援を考えている。貴団体が現地で農業プロジェクトを行っていることを知り、意見を伺いたい。素案としては、日本から農家の人を派遣し、現地で米や野菜の作り方について指導を行うなどを考えている。どうしてもテレビ的・・・ということでそうになってしまうのだが。   |
| 対応内容   | 小学校就学率は93%と上がってきているが、農村部では卒業できる割合が46%と半数に満たない状況である。退学の理由は親の貧困と稼業を手伝わせるためとなっている。カンボジアでは農民が80%を占めているが、30%以上が一日0.5ドルの収入もない現状。農村でいかに食べていけるようになるかが重要である。そのため、貴番組が、次のステップアップとして「農業支援」に着目したことは素晴らしい。番組なので、制限もあるだろうし、日本からの派遣の際には、熱帯農業についての知識や技術のある人を派遣する。または、建設した学校で生徒対象に農業指導を行う。対象地区の貧困家庭に支援を行う、母親たちに指導を家庭菜園指導などを行うなど、あまり欲張らず、的を絞るといいのではないかと。 |
| 特筆した理由 | 学校建設は、支援が目に見えやすいこと、形として残ることから、市民ドナーからの人気が高く、支援が集中している分野である。この有名番組も例外ではなかったが、「学校建設」から「農業支援」に方向転換をはかろうと考え始めていることがたいへん興味深いと感じた。今後、地味な開発支援にも視聴者の目が向いてくれるとよいと思う。  |